

「学ぶ力」	
実態	成果
課題	「1日の時間の使い方を自分で考えて生活している」「意見を発言する前に、自分の考えがうまく伝わるように、話の内容や順序を考えている」に関する大幅な減少が見られる。子どもたち自身が「自ら深く考えることの大切さ」を実感できるような学習を、日々実践していく必要がある。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
「自分の意見を進んで発言しようとしている」については前年度よりも3%以上の増加をしている。一方で、「意見の違う人とも、よく話し合おうとしている」「学習で困っている友達に声をかけたり、一緒に考えたりするようにしている。」に関しては5%程度の低下が見られる。自分の意見の発信については自信をもつ児童が増加した一方、異なる意見をもつ児童との交流については課題がある。また、「自分にはよいところがある」「自分が必要とされていると感じる」に増加が見られる。正解を求めるのではなく、みんなで『成解』を創るという安心感を基盤とし、多様な意見を受容・承認しあえる関係性を築く。	
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力 ～「課題探究的な学習」を取り入れた授業の充実 「AAR」を意識して～	
取組	課題探究的な学習の推進 に向けて
取組	自治的な活動の充実 に向けて
◇研究主題「進んで学びをつなげる子ども～自分で動き出す!～」 ～AARサイクルをまわすための意図をもったリフレクション～ 課題探究的な学習を推進するため、「学びの価値を自覚するリフレクション」を中核に据え、以下の3点を重点的に指導する。 <b>学びをつなげる</b> ：既習事項や他教科、生活経験と現在の学習を意図的につなぐ。 <b>学びの価値を自覚する</b> ：リフレクションを通して、自己の変容や学ぶことの意義を深く認識させる。 <b>さらなる学びに向かう</b> ：リフレクションを終着点とせず、新たな問いを見だし、次なる探究へと向かう原動力とする。	◇よりよい学級にするための学級活動の充実 →学級の様々な課題を解決していく学級会の実施 学級会など、様々な話し合いを通して、唯一の正解ではなく、全員が納得して合意形成を図る「成解」を作り出す活動を活性化させる。 ◇自分たちの生活を振り返る場の設定 →3つのあ「あいさつ・あんぜん・ありがとう」の状況把握 ◇委員会活動での全校に向けた自治的な活動の場の設定 ◇さっぽろっ子サミットと関連を図った活動の推進 →パートナー校間で進められる活動の場の構築
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について	
自治的活動の充実：委員会活動においてICTを効果的に活用し、児童同士の協働的な関わりを深め、主体性・自治性を育成する。 深い学びの実現：ICTを活用して既習事項や他教科等と「学びをつなぐ」授業を推進し、思考の深まりを目指す。 リフレクションの充実：『まなびポケット』等の学習支援ツールに自らの学習履歴を蓄積し、学びの価値を自覚させる振り返り（リフレクション）を実施する。	

<本プログラムの実行に向けて>

